JAPRS

JAN.2008 No.1

新春号

社団法人　日本音楽スタジオ協会

目　次

会長年頭挨拶 1

平成19年度通常総会＆懇親会レポート 2

第8回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート 4

第6回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告 6

2007年JAPRS企業説明会レポート 7

特別レコーディングセミナーレポート 9

第4回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告 10

第7回専門学校委員会担当者研修会レポート 11

「サラウンド勉強会」レポート 13

第14回日本プロ音楽録音賞授賞式レポート 14

第14回日本プロ音楽録音賞 審査委員講評 23

「音の日のつどいパーティ」レポート 29

会員動向 31

会長年頭挨拶

(社) 日本音楽スタジオ協会
会 長　内 沼　映 二

皆様、新年あけましておめでとうございます。
日本音楽スタジオ協会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年の国内問題を振り返ると、年金問題をはじめ、ルールやモラルというものが考えられない程欠如している事柄が続々と表面化した一年だったと思います。

さて、本年JAPRSは社団法人として18年目を迎えることとなりますが、音楽業界に於いては既に25年を経過したCDの発表以来、SACD、DVD更には音楽配信の出現等々、音楽を伝える手段も多様化が進んできました。
これらの多様化は、'70年代後半に発売されたウォークマンから20年が経過した時点でのiPodの登場により、ある部分では音楽を情報として捉える人々が増えていることも事実であり、またソフトについても、年代別購買層の動向に対する対応等、より細分化される傾向にあるのでしょうが、やはり音楽産業を支えるものは、パッケージによるソフトが常にユーザーをリードしていくことが重要なことと思います。
JAPRSが主催団体として参画している日本プロ音楽録音賞も本年で15回目となりますが、パッケージソフトおよび放送の録音内容に焦点を当てたこの顕彰制度は、音楽業界にとって、より大切なものになっているのではないでしょうか。

最後になりますが、本年もJAPRSが抱える様々な問題に対して解決に向け努める所存です。会員の皆様をはじめ、関連各位のご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

平成19年度通常総会＆懇親会レポート

＜通常総会＞

５月24日（木）、JAPRSは港区白金台の「ザ・ハウス白金」2Fにおいて、平成19年度通常総会を開催し、平成18年度の事業報告書（案）決算報告書（案）、平成19年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）について正会員に諮り、全ての議案が異議なく全員一致で承認された。

はじめに、佐藤事務局長が定足数の確認を行い、委任状を含む41名の出席数を確認（定足数25）、総会の開会を宣言した。

総会

続いて内沼会長が議長に当たり、議事録署名人として常任理事の吉川 浩司 氏、清水 三義 氏の両名が選出された。

次に脇田副会長より第1号議案「平成18年度事業報告書（案）」及び佐藤事務局長より「収支決算報告書（案）」について説明が行われ、審議の結果、異議なく全員一致で承認された。

続いて脇田副会長より第2号議案「平成19年度事業計画書（案）」及び佐藤事務局長より「収支予算書（案）」について説明が行われ、審議の結果、第1号議案と同様に全員一致で承認され、議長である内沼会長が閉会を宣し解散した。

＜懇親会＞

通常総会終了後、18：30より「ザ・ハウス白金」１Fにおいて、正会員、賛助会員及び招待者を含む102名が集い、懇親会が開催された。

内沼 映二 会長

司会進行は総務委員会の佐々木委員長（オンエアー麻布）と永野氏（音響ハウス）及び茂木氏（個人会員）の３名が担当し、内沼会長の開会の挨拶により懇親会が始まる。

乾杯の発声・永井 秀文 氏

続いて乾杯となり、恒例により４月から個人正会員として新たに入会された永井 秀文氏により乾杯の発声が行われ、歓談タイムとなる。

会場内は自然に何組かの歓談の輪が出来上がり、和やかな雰囲気になったところで、当協会の所管官庁である経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課（メディアコンテンツ課）課長補佐 太田 茂雄 氏が到着。来賓代表として挨拶が述べられた。

ご来賓代表・太田 茂雄 氏

脇田 貞二 副会長

更に歓談が続くうちに中締めの時間となり、脇田 貞二・副会長による挨拶が行われ、本年の懇親会も無事に終了となりました。

スタッフとして開宴前より準備にご協力いただいた会員の皆様、有難うございました。

第８回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート

平成12年第１回目を開催して以来、今年で８年目を迎えたのがこの新プロ・エンジニア養成セミナーです。

専門学校委員会の主催により実施されているこのセミナーは、JAPRS賛助会員加盟専門学校19校の２年生以上を対象として、東京地区、大阪地区正会員スタジオの協力により継続されているもので、プロのレコーディングスタジオにおけるセッション開始前のスタジオセットアップを体験させることを主目的としています。昨年までのリズム録り・ミックスダウンの二つの実施内容を変更し、新たにPro Toolsを使用したオペレートを加え下記実施内容に変更、東京地区２日間計６回、大阪地区１日２回開催。

＜実施内容＞

①アシスタントエンジニアによるスタジオブースの説明
②アシスタントエンジニアからのアドバイス
③ミックスダウンのセットアップ
④ミックスダウン・デモ
　２chバランス・２chメーターの確認　EQの使用方法　DYN・INS系の使用方法
　クロス・パッチ等　AUX系のエフェクタ・バランス トータル処理の方法

東京地区会場（６月２日・３日 於：アバコクリエイティブスタジオ302st）
　参加者：９校　81名
　エンジニア：吉田　保氏
　アシスタントエンジニア：篠原　麻梨氏
大阪地区会場（６月９日 於：スタジオグルーヴAst）
　参加者：２校　24名
　エンジニア：吉田　保氏
　アシスタントエンジニア：石山　晶規氏

アバコクリエイティブスタジオ302st

＜タイムスケジュール＞
東京会場：アバコクリエイティブスタジオ302st
　6月2日（土）
　　1回目　10：00～12：15
　　2回目　13：00～15：15
　　3回目　15：30～17：45
　6月3日（日）
　　4回目　10：00～12：15
　　5回目　13：00～15：15
　　6回目　15：30～17：45

大阪会場：スタジオグルーヴ
　6月9日（土）
　　1回目　13：00～15：15　2回目　15：30～17：45

＜セミナーを終えて＞
　アバコクリエイティブスタジオ6月3日（日）、養成セミナーの引率で参加した。昨年までの実施内容を変更し、今回は二つの大きなテーマで実施した。アシスタントエンジニアの内容とミックスダウンの内容が、テーマであった。今回から、音を聞く事も取り入れたので、養成セミナーの内容がレベルアップしたと確信している。1日3回の実施内容で、吉田氏・篠原氏にとっては、ハードであったが、学生にとっては良い勉強になったであろう。プロの現場で、プロのエンジニアの動きを自分の瞳で見たことは、学生にとってこれからの刺激になると思う。養成セミナーに参加した学生さん達が、来年JAPRSのスタジオで働いている事を望みます。

東放学園音響専門学校　教務教育部　脇田貞二

第６回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告

７月１日（日）、札幌２、仙台×２、福島、新潟、東京×７、名古屋×３、四日市、大阪×２、広島の９地区20ヶ所の団体受験会場に分散して実施された「第６回サウンドレコーディング技術認定試験」については、当初の受験申請者数595名に対して、欠席者を除く当日の受験者数535名の参加により実施されました。

試験内容は例年通り四者択一マークシート方式で、音響の理論／電気音響とスタジオシステム／レコーディング技術と先進技術／音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史などの４ジャンルから各25問（計100問、1000点満点）が出題されましたが、平均点は681.07点という結果になりました。

キャットミュージックカレッジ専門学校

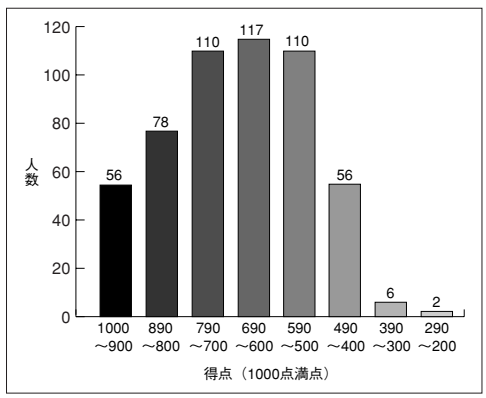
また、昨年度の受験者数455名に対して、本年度は80名が増加いたしました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

（１）受験申請者595名　欠席60名　受験者535名（男性347、女性188名）
　　最低点260点　最高点1000点（6名）　平均点681.07点

（２）平均点詳細（各ブロック250点満点）
　　Ⅰ.音響の理論　正答率　75.2%　平均点　187.9点
　　Ⅱ.電気音響とスタジオシステム　正答率　65.2%　平均点　162.9点
　　Ⅲ.レコーディング技術と先進技術　正答率　62.9%　平均点　157.2点
　　Ⅳ.音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史など　正答率　69.2%　平均点　173.0点

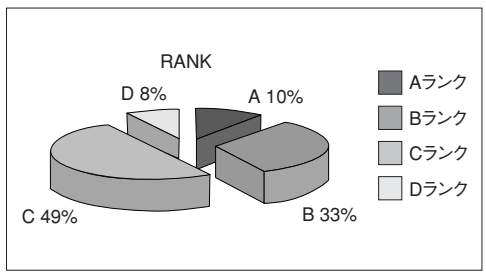
（３）得点別人数

1000～900	56名
890～800	78名
790～700	110名
690～600	117名
590～500	110名
490～400	56名
390～300	6名
290～200	2名
計	535名



（４）ランク別人数

Ａランク	1000～901点	54名
Ｂ　〃	900～701点	176名
Ｃ　〃	700～451点	264名
Ｄ　〃	450～201点	41名
Ｅ　〃	200点以下	0名
計		535名



2007年JAPRS企業説明会レポート

専門学校東京ビジュアルアーツ　田中　孝

平成19年６月24日（日）、JAPRS企業説明会が開催されました。この催しも今回で７回目をむかえ、大きな協会行事のひとつになっています。今回は専門学校13校から109名、出展社側からは正会員スタジオ６社、賛助会員社１社の12名が参加しました。

会場も今回から会員学校を使用することとなり、以前にも実施実績のある東放学園音響専門学校の協力をいただきました。

当日はいまにも雨が落ちてきそうな天候でしたが、将来の進路を決めるべく熱心な学生達が集まりました。

今回の説明会は７つの座学教室を使用し、15名を目安として参加学生がグループ化されました。まず実施に先立ち、校内放送を利用して専門学校委員会委員長の吉田 保氏から挨拶をいただき、その後、副委員長の脇田先生より実施諸注意がありました。

今回は一回あたりの説明時間を30分とし、計５回が行われました。１回目から３回目までは、学生側を固定し、説明をされる出展社側の方々に教室を移動していただきました。15分間の休憩後、４回目と５回目は出展社側の方々を固定し、学生側が希望するブース（教室）に移動する方法を採用しました。

４回目以降は自由参加でしたが、大多数の学生が最後まで熱心に質問をしていたのが印象的でした。

（株）エムアイティギャザリング

（株）音響ハウス

（株）サウンドインスタジオ

（株）サウンド・シティ

(株)バーニッシュ

(株)ミキサーズラボ

(株)サンフォニックス

企業説明会にご出展いただいた７社の皆様に心より御礼申し上げます。

また、各教室にて監督指導をしていただいた先生方、お疲れ様でした。

なお次回は、専門学校東京ビジュアルアーツでの開催を予定しております。

(株)エムアイティギャザリング	取締役管理部長	横山　武
	ハウスエンジニア	櫻井　直樹
(株)音響ハウス	音楽録音担当執行役員	田中　誠記
	営業部音楽担当	福田　幸浩
	経理総務部チーフ	豊田　重成
(株)サウンドインスタジオ	スタジオ営業グループ長	高取　好克
(株)サウンド・シティ	オーディオ部課長	船津　広隆
	スタジオマネジャー	明地　権
(株)バーニッシュ	レコーディングコーディネイター	梅木　由仁
(株)ミキサーズラボ	専務取締役	吉井　聡
(株)サンフォニックス	管理部総務課課長	本橋　芳一
	管理部総務課係長	西尾　靖彦

（以上敬称略）

特別レコーディングセミナーレポート

専門学校デジタルアーツ仙台　櫻井　潤

会　場：専門学校デジタルアーツ仙台
日　時：８月１日（水）10：00～13：00　レコーディング
　　14：00～17：00　ミックスダウン

デジタルアーツ仙台で開催される吉田保氏のレコーディング特別講座は今年で３回目となります。昨年までは、２年生のレコーディングコースの選択者を対象としておりましたが、今年は、１年生の希望者12名を対象としたセミナーを実施しました。

本格的にレコーディングやミックスダウンを経験するのは、初めてとあって、学生らは真剣に取り組んでおりました。

特に、吉田保氏が音作りをはじめると、音がみるみる良くなっていく状況を学生は、肌で感じ取ったはずです。

レコーディングメンバーはデジタルアーツ仙台の講師陣で構成されたフォーリズム、プラス、ヴォーカル、プロツールス上での録音、ミキシングではアナログコンソールSSL4000Gシリーズ、プラス、プロツールスでのミキシングで行い、新旧取り混ぜてのミキシング、アナログコンソール、DAWの特徴を使い分けで作業を実践し生徒達にティーチングを行いましたが今回は一年生でしたので少し内容的に難しいように思えました。プロの作業を見て音作りのバランスの取り方、その早さに驚いていたようです。

録音でのモニターバランスの具体的な取り方ミキシングバランス、音色、定位、等を隅々まで詳しく説明をし何故ここまでエンジニアが行うかの理由をも含めての講義、実践内容で進められていきました。

また、講座の最後に、吉田保氏の雑談コーナー？（質問コーナー）では、普段の授業では、聞くことのできない貴重な「録音での体験談」を聞くことが出来たことも、学生にとってよき経験になりました。

尚、余談ですが、私（櫻井）もギタープレイヤーとして参加させて頂きましたが、吉田保氏のプレイヤーに返すモニターの音（２MIX）もとても聞きやすく、気持ちよく演奏させて頂きました。おかげ様で、夜の部のビールが、非常においしく頂けました！（笑い）

第４回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告

専門学校デジタルアーツ仙台

９月２日（日）、札幌×２、仙台、新潟、東京×５、横浜、名古屋、大阪×２、広島×２、博多の９地区16ヶ所の団体受験会場に分散して、「第4回JAPRS認定Pro Tools技術認定試験」が実施されました。本年度の受験者数は、昨年度の469名に対して524名に達し、55名の増加という結果となりました。

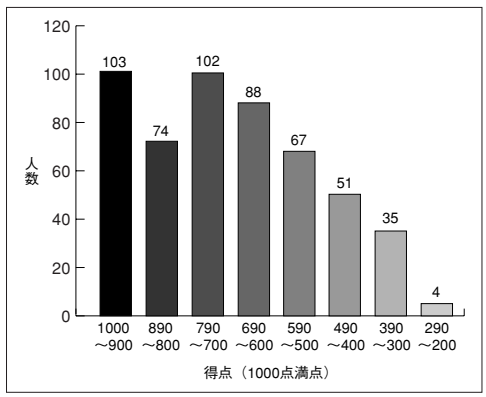
また、今回の試験については、昨年と同様に受験者個々のPro Toolsに関する知識をより明確に把握するために、初級50問（500点）、中級50問（500点）の出題構成とし、それぞれ「Pro Tools概要」「録音・編集」「ミキシング」「シンク・MIDI・ファイル管理など」に区分された出題としたが、初級問題の正答率は74.1%、中級問題については62.9%、全体的な正答率は68.5%という結果になりました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

（１）受験申請者628名　欠席104名　受験者524名（男性328名、女性196名）
　　最低点250点　最高点1,000点（7名）総合平均点698.28点

（２）平均点詳細
　　初級1（Pro Tools概要／120点）：97.1点
　　初級2（録音・編集／120点）：86.9点
　　初級3（ミキシング／160点）：123.9点
　　初級4（シンク・MIDI・ファイル管理など／100点）：65.8点
　　◆初級計373.7点
　　中級1（Pro Tools概要／130点）：84.6点
　　中級2（録音・編集／150点）：100.0点
　　中級3（ミキシング／150点）：96.5点
　　中級4（シンク・MIDI・ファイル管理など／70点）：43.4点
　　◆中級計324.5点

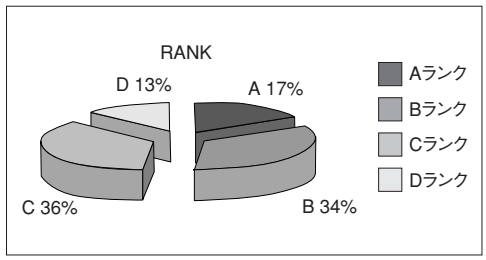
（３）得点別人数

1000～900	103名
890～800	74名
790～700	102名
690～600	88名
590～500	67名
490～400	51名
390～300	35名
290～200	4名
計	524名



（４）ランク別人数

Aランク	1000～901点	90名
B　〃	900～701点	180名
C　〃	700～451点	188名
D　〃	450～201点	66名
E　〃	200点以下	0名
計		計 524名



第７回専門学校委員会担当者研修会レポート

平成19年11月22日（木）～23日（金）、１泊２日で11名の参加者により第７回専門学校委員会担当者研修会が実施されました。研修内容を要約して以下の通り報告いたします。

●11月22日（木）

13：00　新幹線・静岡駅でJR在来線に乗り換え、藤枝駅南口に集合。タクシーに分乗して大井川沿いに位置する（株）ソニー・ミュージックマニュファクチュアリング吉田工場へ移動。

13：20　吉田工場に到着。11名中４名は第２回研修会の際に訪れているため５年ぶりの再訪。正面玄関を入ると“歓迎（社）日本音楽スタジオ協会専門学校委員会”のプレートに迎えられる。そして左手には1982年に世界で初めて大井川工場で生産したCD（ビリー・ジョエル／ニューヨーク52番街）のモニュメント。これは、当時の大井川工場に設置されたものを、吉田工場が完成した際に移設されたものです。

13：25　岡部前社長、工場幹部の方々の案内で２Fの座学会場となる201会議室に集合。最初に岡部前社長より（株）ソニー・ミュージックマニュファクチュアリングの全体的な概要が説明される。

１．工場概要説明

’69年2月に大井川工場に於いてアナログレコードを生産開始して以来、パッケージメディアの生産は’82年CD～’89年LD～’92年MD～’97年DVD～’04年UMD（ユニバーサル・メディア・ディスクの略・プレイステーションポータブル「PSP」に対応）そして’06年にBD（Blu-ray Disc）をそれぞれ生産開始し、現在は茨城工場とともに光ディスク製造の拠点となっている。毎年、北米・南米･欧州･中国･豪州のソニーグループ光ディスク工場が集う「Disc Conference」を実施し、海外工場との技術交流を図っている。

また、循環型社会の構築を目指し、不要となった光ディスクの主原料であるポリカーボネイト樹脂や製品梱包材料のリサイクルを開始している。

13：50　**２．CD・DVD・BDに関する生産工程の説明**

①マスタリング工程

〈CD・DVD〉

マスターメディアの情報を、レジストを塗布した盤面上にピットとして記録し、マスターを作成。

↓

高速精密メッキ装置により、順次マスタースタンパー～マザースタンパー～スタンパーを作成。

〈BD〉

情報をソニーPTMシステムにより、シリコン基盤上の無機レジスト層にピットとして記録し、同じメッキ装置により直接マスタースタンパーのみを作成。

②モールディング工程

金型にスタンパーをセットし、ポリカーボネイト樹脂を射出成形し、透明なディスク基盤を作成。

③反射膜保護工程

CD〈保護膜〉

透明ディスク基盤のピット面上にレーザー光線を反射させるためのアルミ金属膜を付け、紫外線硬化樹脂を塗布し、保護膜を作成。

DVD〈貼り合わせ〉

透明単盤に反射膜を付け、紫外線硬化樹脂接着剤を塗布し、２枚を貼り合わ

せ１枚のディスクを作成。
BD〈カバー＆ハードコート〉
透明ディスク基盤に反射膜を付け、カバー層を塗布し紫外線で硬化させる。更にキズ、汚れ防止用にハードコート層を塗布する。

④印刷工程
高性能な印刷システムにより、タイトル・デザイン等をディスク上に印刷する。

⑤仕上工程
全自動化されたパッケージマシーンによりディスク、バックカバー、ブックレット、背ラベル、解説書、表紙をプラスチックケースに組込み、１枚ずつフィルム包装して完成品にする。

14：20　**３．品質管理**
品質／環境マネジメントシステムについて説明が行われた。

①'96年、光ディスク製造業界で初めて国際標準化機構（ISO）から品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」の認証を取得。

②'97年、レコード会社では日本で初めて環境システムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。

③Voice of Customer（お客様の声）により品質目標を設定し、生産の改善、向上、コストの削減に取り組んでいる。

14：35　**４．音質管理の重要性**
CD生産開始以来の音質管理の重要性について、事例を基に説明が行われた。

14：40　**５．工場見学**
座学が終了すると、シューズカバーとヘッドカバーが渡され、１Fの工場入口に集合、２グループに分かれてCD、DVD、BD、UMDの各生産工程を見学。各ブロック間の床のライン上には多数のコントロールされたロボットが動き回っていて、その無駄のない動きを見ていると時間を忘れてしまいそうで、興味が尽きない。

15：45　工場見学が終了し、１Fのモニュメントの前で座学および工場見学の説明をしていただいた幹部の方々と共に記念撮影後、宿泊先へ移動。

17：00　焼津市「ホテルアンビア松風閣」に到着。

18：30　夕食兼懇親会

21：30　幹事部屋に集合し、見学会の感想等も含めた懇親会第２部を実施。

●11月23日（金）

7：00
〜　各自、朝食バイキング。
9：00

9：30　現地解散

５年ぶりに吉田工場見学会を実施しましたが、初めての参加者が多く、内容的にも好評でした。吉田工場幹部の皆様には、年間で最も多忙な時期に様々なご配慮とご協力をいただき、有難うございました。

「サラウンド勉強会」レポート

ヤマハエピキュラススタジオ　重田　克美

今期第１回サラウンド勉強会として開催されたSONAリスニングルーム見学会に続く形で11月28日、東放学園音響専門学校・渋谷校舎 ３Ｆ ３Ａ−２教室に於いて第２回目として「DTSおよびDolbyの現状と今後の動向」と題されたセミナーが開催されました。

近田 まり子 氏

中山 尚幸 氏

第１部ではdts Japan株式会社　近田まり子氏を、第２部ではDolby Laboratories International Services Inc. 日本支社　中山尚幸氏をそれぞれ講師に迎えての２部構成、約２時間半のセミナーとなりました。

以前にもJAPRSセミナーとして行われているテーマではありますが、HD-DVDやBlu-rayの登場に合わせた上位フォーマットも登場したこの機会に、今一度復習を兼ねての開催です。

私たち音楽スタジオにとって、まだまだ割合として少なかった「サラウンド」も、ようやく市民権を得た感もあり、約30名の方が興味を持って受講されていました。

二部ともにそれぞれの方式の歴史、基礎フォーマットから最新の上位フォーマットに至るコーディングのしくみ、選択可能なオプションの紹介、さらにエンコード時のパラメータ説明と、決して長くない時間の中で充実した内容のセミナーでした。

両方式共に上位フォーマットのストリームの中に下位互換ストリームを内包している事、上位のデータは下位ストリームと元音との差分を用いてコーディングする事で、ディスク容量の節約と互換性を実現させている事には感心させられました。

また最近では、ソフトウエアエンコーダが手に入るようになり、時にエンコードまでミキシングエンジニアがやる事になるプロジェクトもあるようで、エンコード時の各パラメータの機能について直接質問をぶつけ、説明を受けられたのは、貴重な経験だったと思います。

私たち音に携わる者にとっても待ち望んでいた広帯域メディアの登場ですが、映像の為に割かれる帯域を考えると非圧縮のフルサラウンドをパッケージするのは、まだ先の話になりそうです。

サラウンド音声でのビデオディスク制作時には必ずお世話になるコーデック２方式、その仕組みを理解して積極的に音作りに反映させる事で、より良い作品を生み出せるかな？と感じられたセミナーでした。

第14回日本プロ音楽録音賞授賞式レポート

「日本プロ音楽録音賞」は、平成５年に当協会が制定した「JAPRS録音賞」を出発点とし、音楽制作、録音に対する認識を高め、音楽産業の更なる質の向上、録音技術者の地位の確立などを目的として、平成６年より実施されているものです。

今回第14回目の実施にあたり、(社)日本音楽スタジオ協会および（社)日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、(社)日本レコード協会、演奏家権利処理合同機構(Music People's Nest）の５団体が主催し、経済産業省の後援および日本放送協会、(社）日本民間放送連盟の協賛、サウンド＆レコーディング・マガジン、CDジャーナル、スイングジャーナル、ステレオサウンド、レコード芸術の賛助、並びにビクターエンタテインメント(株)、東放学園音響専門学校の協力により「第14回日本プロ音楽録音賞」を実施し、平成19年12月６日(木)、東京・虎ノ門パストラル本館８Ｆ「けやき」に於いて授賞式が開催され、受賞作品および受賞者の発表が行われました。

今回の授賞式も恒例となっている12月６日の「音の日」を記念してのイベントとなり、はじめに内沼会長が運営委員長として開会の辞を述べられ、続いてプロ音楽録音賞に対し後援を得ている経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 太田 茂雄氏が来賓代表として挨拶された後、５部門計11作品およびベストパフォーマー賞について表彰が行われました。

内沼 映二 運営委員長

太田 茂雄 氏

応募作品の分類については以下の通りとし、審査は以下の５部門を対象に行われ、全63作品の応募から部門Ａ：３作品、部門Ｂ：３作品、部門Ｃ：１作品、部門Ｄ：１作品、部門Ｅ：３作品がそれぞれ優秀作品としてノミネートされ、その中から各部門１作品が最優秀作品として選定され、更に今年度より新たに制定されたベストパフォーマー賞１作品が選ばれました。

部門Ａ：CDパッケージメディア／応募作品11点
クラッシック、ジャズ等

部門Ｂ：CDパッケージメディア／応募作品18点
ポップス、歌謡曲等

部門Ｃ：ニューパッケージメディア／応募作品４点
DVD-Audio、DVD-Video、SACD
（２chステレオ）

部門Ｄ：ニューパッケージメディア
DVD-Audio、DVD-Video、SACD
(マルチchサラウンド)／応募作品７点

部門Ｅ：放送メディア／応募作品23点
放送作品部門(ラジオ番組：AM、FM、衛星放送　テレビ番組：地上波、衛星放送)

ベストパフォーマー賞

今回は、各部門の最優秀作品、優秀作品およびベストパフォーマー賞を紹介するとともに、最優秀作品として表彰された代表エンジニアの方々およびベストパフォーマー賞のアーティストにアンケートを依頼し、受賞の感想、作品のコンセプトについてコメントをいただきましたので、16頁以降に掲載させていただきます。

第14回日本プロ音楽録音賞
授賞式次第

1、主催者代表挨拶

第14回日本プロ音楽録音賞　運営委員長
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二

2、ご来賓ご挨拶

経済産業省　商務情報政策局
文化情報関連産業課 課長補佐　太田　茂雄 様

3、最優秀作品・優秀作品の発表及び表彰並びに審査員講評

部門A
社団法人日本オーディオ協会　会長　鹿井　信雄
社団法人日本音楽スタジオ協会　相談役　大野　進

部門B
社団法人日本レコード協会　専務理事　田辺　攻
日本ミキサー協会　理事長　梅津　達男

部門C
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二
ビクターエンタテインメント株式会社　ビクタースタジオ長　高田　英男

部門D
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二
ビクターエンタテインメント株式会社　ビクタースタジオ長　高田　英男

部門E
日本放送協会放送技術局コンテンツ技術センター　センター長　高橋　彰
社団法人日本音楽スタジオ協会　顧問　淺見　啓明

4、ベストパフォーマー賞の発表及び表彰並びに審査員講評

演奏家権利処理合同機構
ミュージック ピープルズ ネスト　副代表幹事　松武　秀樹
代表幹事　椎名　和夫

5、受賞者代表挨拶

日本放送協会放送技術局コンテンツ技術センター
番組技術開発　深田　晃

以上

部門A　CDパッケージメディア:クラシック・ジャズ等（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

●作品「ファイナル・オーケストラ・スペシャル・
ライヴ オーボエ協奏曲集」（SICC-10045）より
「アルビノーニ：オーボエ協奏曲 変ロ長調Op7-3 第１楽章：アレグロ」
宮本　文昭、東京都交響楽団

発売元：Sony Music Japan International Inc.

☆**メイン・エンジニア：鈴木　浩二**（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

＜受賞のことば＞

このたびは「最優秀録音賞」をいただき、誠にありがとうございました。

日本プロ音楽録音は第一回からたびたびエントリーさせていただいておりますが、最優秀賞を頂いたのは初めてのことで、大変嬉しく光栄に存じます。

この作品はサントリーホールで行われた、宮本文昭さんのアルビノーニ作曲のオーボエコンチェルトのライブ録音です。宮本さんはこの録音後の春に演奏家の引退を決めておられ、クラシック音楽の最後の録音となりました。宮本さんをはじめスタッフ一同、いつもとは何か違う思いを感じ、私もよい音楽よい録音を残したいと強く感じました。

録音のコンセプトとしましては、サントリーホールの空間や臨場感を大切にし、宮本さんの表現する音楽のリアリティーとオーボエの輪郭が感じるよう臨みました。

録音システムはDSD-SONOMA-24chでマルチ録音し、DSD- 2 chにミックスしました。空間の繊細な表現はDSDはとても優れていて、ホール録音には欠かせられない録音機です。そしてSACDとCD用にマスタリングしハイブリッド使用でマスターを作製しました。

オーディオバランス的には少しオーボエが前に出て大きく感じられますが、ソリストの繊細な表現とオーボエのリアリティーを大切にしたバランスで、音楽としては違和感のない、そしてわくわくするサウンドにミックスできたと思います。

頂いたこの賞を励みに、またよい音楽よい録音の作品に携われるよう、精進努力して参りたいと思います。

○マスタリング・エンジニア：鈴木　浩二
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

○アシスタント・エンジニア：波多腰　英靖
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

【優秀賞】

●作品「EARTHEORY」(VICJ-61444)より「Eartheory」塩谷　哲トリオ

発売元：ビクターエンタテインメント株式会社

☆メイン・エンジニア：松本　靖雄（ZeeQ Co.,LTD.）
○マスタリング・エンジニア：川﨑　洋（FLAIR MASTERING WORKS）

●作品「Just Us」(ENJ-061112)より「No Strings Attached」E' nJ

発売元：ATONO RECORD INC.

☆メイン・エンジニア：半田　和彦
（株式会社サウンドインスタジオ・ミキサーズクルー）
○マスタリング・エンジニア：中里　正男（株式会社音響ハウス）
○レコーディング・エンジニア：Gary Chester（フリーランス）

部門B　CDパッケージメディア：ポップス・歌謡曲等（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「風の詩を聴かせて」(VICL-36800) より「風の詩を聴かせて」桑田　佳祐

発売元：ビクターエンタテインメント株式会社

☆メイン・エンジニア：中山　佳敬
（ビクターエンタテインメント株式会社）

＜受賞のことば＞

この度は私の録音した作品が最優秀作品として選ばれ、表彰して戴けた事を大変嬉しく思います。今までも何度か応募してきましたが、特にこの“風の詩を聴かせて”という作品で賞を戴けた事が自分にとってすごく励みになりました。

この曲は今年の初め、お正月の休み明けにプリプロをスタートさせて以来実に6ヶ月もの間細かいアレンジやバランスの修正等をしながらとてもデリケートに創られていきました。その間すごく集中して色々なアレンジやレコーディングの仕方を試したり、しばらく全く聴かないようにしてから冷静な耳で聴いてみたりといった作業を繰り返し、この曲の伝えたい事がぶれないように、桑田さんと共にベストな音を探ってきました。通常のレコーディングに比べて時間をゆったりと使う事ができた分、色々な事を試せたのでとても勉強になりました。あたりまえの事かもしれませんが、自分の中ではとにかく詩が伝わるように、この曲のイメージがはっきりするように音をつくる事がテーマであり、それがこういった形で認めて戴けた事がなにより嬉しいです。

そしてこのレコーディングに際して音楽的に、また効率よく作業を進めてくれたエンジニアの高須くんには本当に感謝してますし、またすごく無理な注文を聞きながら最終的に素晴しい音に仕上げてくださったマスタリングエンジニアの小島さんをはじめスタジオのスタッフに感謝します。今回は本当にありがとうございました。

○**マスタリング・エンジニア：小島　康太郎**（FLAIR MASTERING WORKS）
○**アシスタント・エンジニア：髙須　寛光**（ビクターエンタテインメント株式会社）

【優秀賞】
●**作品「Milestone」（TOCT-26138）より「20才のころ」今井　美樹**

株式会社EMIミュージック・ジャパン

☆**メイン・エンジニア：三浦　瑞生**（株式会社ミキサーズラボ）
○**マスタリング・エンジニア：宮本　茂男**（form THE MASTER）

【優秀賞】
●**作品「Sad Songs」（MUCD-1150）より**
「The Water Is Wide」川江　美奈子

発売元：株式会社ドリーミュージック

☆**メイン・エンジニア：加納　洋一郎**（株式会社ミキサーズラボ）
○**マスタリング・エンジニア：竹中　昭彦**
（株式会社ユーズミュージック・ハートビートレコーディングスタジオ）

部門C　ニューパッケージメディア：DVD-Audio、DVD-Video、SACD（2ch ステレオ）（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■**作品「Sara Smile」（PCCY-60003）より「Fragile」市原　ひかり**

発売元：株式会社ポニーキャニオン
SACD

☆**メイン・エンジニア：川崎　義博**
（株式会社ポニーキャニオン）

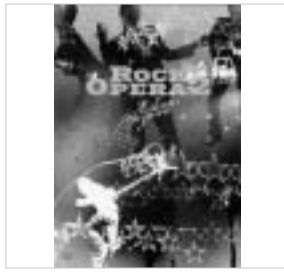
＜受賞のことば＞
　この作品は「トランペッター市原ひかり（http://www.hikari-ichihara.com/）」の2ndアルバムで、市原さんと2回目の仕事でした。前作から市原さんは太くどっしりとしたトランペットの音色を好まれていて、TDでは特に意識して取り組みました。マスタリングでは、マスターの息づかいを忠実に再現する為に、極力ダイナミクスを生かせる工夫をしています。僕自身がメーカーのハウスエンジニアということもあり、仕事の内容はレコーディング以外にマスタリング、PA、SE録音等多種多様です。最近では携帯電話／PC向けのノンパッケージ系の仕事も増えています。パッケージの売上が落ち込み、圧縮された音源が破竹の勢いでマーケットに流れていく渦中にいて、当初、僕らプロの仕事ぶりが認知されない世の中になるのではないかと心配でなりませんでした。しかし、様々なメディア向けの仕事をこなすにつれて、不安が安堵の気持ちに変わっていきました。いかなる媒体用にフォーマット変換しても、良い録音作品はそのテイストを確実に残しています。そしてアーティスト、スタッフのプロの仕事がお

客さんにも確実に伝わっていることを感じるのです。
　そんな状況の中いただけた今回の賞は特に嬉しいものになりました。この受賞により、市原ひかりさんの作品を手にしていただけたお客さんが、改めて良い作品に出会えたと思っていただければ幸いです。
　この度は身に余る賞を頂きありがとうございました。

○マスタリング・エンジニア：川崎　義博（株式会社ポニーキャニオン）

部門D　ニューパッケージメディア：DVD-Audio、DVD-Video、SACD
（マルチch サラウンド）（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「Rock Opera 2」（TOBF-5527・28）より
「Lookin' Back」矢沢　永吉
発売元：株式会社EMIミュージック・ジャパン
DVD-Video



☆メイン・エンジニア：篠笥　孝
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

＜受賞のことば＞
　このライブ作品のテーマはロックオペラです。外人で固めたリズムセクションに、チェコフィルオーケストラを交えた東京武道館ライブでした。当然、空気感をどれだけリアルに再現できるかが勝負です。録音はリアルタイムで響いている音を、マイクを通して聞く事がもっぱらですが、実際に自らの耳で聴く事も重要な事です。私は観客としてライブを体感し、それを元に音場空間を作りました。ライブは５日間行われたので、事前にライブを見ました。観客として体感した印象は、とにかく鮮明な音像でした。武道館という非常に響き過ぎる空間で行われているライブと思えないほど反響せず、直接音で聴かせるエッジの効いた音でした。現在のPA業界の機材の進歩は優れており、こういった環境にも対応できるシステムを組んでいます。コンセプトはリアルな再現ですが、しかし、響きを押さえたクリアなサウンドを忠実に再現してしまうとつまらない音になると考え、武道館というイメージを彷彿させる柔らかいアンビエント感も全面に出しつつ、がっちりとした音像を意識して作りました。イメージでは簡単ですが、かなり難しいテーマでした。また、直接音を全ての観客席にダイレクトに聞かせるという、PA技術が進歩した環境でマイクを立ててみると、全く響きの無いアンビエントとなってしまい、反響したステージアンビエントを得るのが至難でした。最後に、素晴らしい作品に巡り会え、沢山の方々のバックアップを頂き、そして賞を頂けたという事に感謝の気持ちでいっぱいです。

○マスタリング・エンジニア：篠笥　孝(株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ)
○アシスタント・エンジニア：宇納　真也（株式会社 音）

部門E　放送メディア（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「ハイビジョン特集」より
「冨田　勲　仏法僧に捧げるシンフォニー～鳳来寺山63年目の再訪～」

NHK 衛星ハイビジョン BS-hi 5.1ch 2006年11月22日放送

☆メイン・エンジニア：深田　晃
（NHK 放送技術局 コンテンツ技術センター
番組技術開発）

＜受賞のことば＞

このたびは最優秀作品に選定していただきありがとうございました。作品作りにおけるエンジニアやパフォーマーに着目していただけるこのような賞の存在は私達にとって非常に励みになります。エンジニアの仕事も時代と共に変化してきましたが、現在は以前に比べてより作品作りにおける重要な位置づけを持つようになってきたと考えています。今後も作品に力を与えられるような仕事を行っていきたいと考えています。レコーディングにおいて常日頃から気を使っているところは、楽器の音それぞれの存在感を出すための明瞭度と透明感です。今回の作品は野外収録にも関わらず、使用したマイクは全てコンデンサーマイクで、風や湿気の影響を考えれば問題になることもありますが、まずは音質を重視したいという思いでプランニングを行いました。また、事前に山の反射音の測定を行い、マイクポジションを決定し作品の意図にそった音が録音出来るよう工夫しました。山の自然な環境音と演奏される楽器音を融合させる事で、自然でありながら強い音楽的メッセージを伝える事を目指しました。本番はあいにく雨が降りましたが、効果音ではないその雨の自然なサラウンド感が結果として作品に力を与えたと思っています。

作品は、多くの人々の共同作業によって完成します。今回も非常に多くのスタッフが山と格闘しながらそれぞれのポジションでベストを尽くしました。その結果得られたのが今回の賞です。全てのスタッフの気持ちが一つの作品に込められ結果に結びついたのです。関わった全てのスタッフに感謝したいと思います。

○セカンド・エンジニア：西村　大介（NHK 放送技術局 報道技術センター 中継）
○セカンド・エンジニア：小野　良太（NHK 放送技術局 コンテンツ技術センター 番組技術開発）
○セカンド・エンジニア：吉田　英人（NHK 放送技術局 報道技術センター 中継）

【優秀賞】

●作品「題名のない音楽会21」より「団塊の世代が選ぶ映画音楽(2)／シェルブールの雨傘」
羽田　健太郎、ミシェル・ルグラン、神奈川フィルハーモニー管弦楽団

テレビ朝日　HDTV 5.1ch　2007年3月18日放送

☆メイン・エンジニア：酒井　秀一（株式会社テレビ朝日）
○セカンド・エンジニア：早川　憲一（株式会社テレビ朝日）
○フロア・チーフ・アシスタント：須藤　泰道（株式会社日放）
○フロア・アシスタント：町田　なおみ（株式会社日放）

【優秀賞】

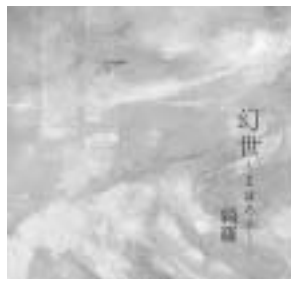
●作品「2006サイトウ・キネン・フェスティバル松本」より
「ショスタコーヴィッチ交響曲第5番」
指揮：小澤　征爾、サイトウ・キネン・オーケストラ

長野朝日放送　HDTV 5.1ch　2006年12月24日放送

☆メイン・エンジニア：岩井　和久（長野朝日放送株式会社）
○セカンド・エンジニア：井上　哲（テレビ朝日映像株式会社）

ベストパフォーマー賞
■作品「幻世～まぼろよ～」（WHSP-1025）より
「うららか」綺　羅

発売元：株式会社PCカンパニーWhisper Notes Music



アーティスト：綺　羅

＜受賞のことば＞

この度は、ベストパフォーマー賞をありがとうございました。長年スタジオミュージシャンとしてさまざまなレコーディングに関わらせて頂いて来た経験を私達なりに最大限に生かした作品、日本人でなければ作れない作品を世の中に残して行きたいという思いで綺羅というユニットを立ち上げたのが５年前。なかなか今の音楽市場では受け入れてくださるメディアも無く、それでも予算の無い中で極少数の賛同して下さる仲間の協力を得ながら、３枚のCDをリリースして来ました。

今回のアルバム〈幻世〉は、最初から最後まで綺羅二人とエンジニア兼オペレーター担当の岩崎元是の３人での録音作業でした。岩崎氏は大変優れた作編曲家であり気心の知れたスタジオコーラス仲間でもあるので、私達の歌に対する息づかいや思いを120%理解して下さっています。特に受賞曲「うららか」ではレンジの違う男女の掛け合いや生楽器を一切使わずに表現した和の空気感など絶妙なMIXになっていると思いましたので、最初は岩崎氏のエンジニアとしての技術を評価して頂きたくエントリー致しました。ですが、思いがけず綺羅自身が賞を戴ける事になって、自分達の目指している方向が間違っていなかったのだなという確信を同時に戴けたと、大変嬉しく思っています。

今後は今の自己満足から一歩踏み出してより多くの方に聴いて頂けるよう頑張って行きたいと思っています。ありがとうございました。

綺　羅

審査委員会

総合審査委員長	内沼　映二
副審査委員長	高田　英男
部門A･B･C･D審査委員	内沼　映二、高田　英男、梅津　達男、大野　　進、 倉園　明彦、椎名　和夫、塩澤　利安、下川　晴彦、 高橋　邦明、永井　秀文、浜田　純伸、藤田　厚生、 松尾　順二、松武　秀樹、吉田　　保、脇田　貞二
部門E審査委員	淺見　啓明、石野　和男、加藤　茂樹、清水　幸男、 浜田　暁弘

（以上50音順）

今回の顕彰内容については、各部門の最優秀作品と優秀作品の制作に携わったメイン・エンジニア、マスタリング・エンジニア及びベストパフォーマー賞に表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈。セカンド・エンジニア、アシスタントエンジニアは表彰状を贈呈。

なお、部門A、B、C、Dの最優秀賞については、優秀なスタッフと良好な環境を提供されたメインのスタジオについても表彰状とクリスタル製の表彰楯が授与された。

クリスタル製の表彰楯を手にした受賞者の皆さん

第14回日本プロ音楽録音賞　審査委員講評

＜部門A　CDパッケージメディア（クラッシック・ジャズ等）＞

(社)日本音楽スタジオ協会
相談役 大野 進

第14回を向かえました日本プロ音楽録音賞でございますが、この賞を顕彰するにあたり、主催団体の５団体、後援頂きました経済産業省。NHK、民放連のご協賛、本年から音楽、技術専門紙各社の賛助、毎年協力を頂くビクターエンタテインメント、東放学園専門学校。そして、この賞にご理解を頂く関係各位に心から御礼を申し上げたいと思います。

講評に入る前に、冒頭内沼委員長のお話があったように、私達審査委員会は、今14回より明確な審査基準を作成し、技術的・音楽的内容を共通の項目で、審査員同士も納得しうる条件で審査を致しました。過去13回までの審査に於いて、結果的には驚くような位差は生じてはおりませんでしたが、主観的な方法より何れの目から見ても公平な審査が出来るよう採用致しました。

本年度の部門Ａには、11作品の応募が有りました。クラッシックは大編成やピアノ・ソロ、ジャズにフラメンコと多種では有りましたが、もう少し多くの応募があればと思いました。来年は15周年です、是非多数の作品を期待致します。

それでは、審査委員の皆さんのご意見を含め、部門Ａの講評をさせて頂きたいと思います。

昨今の録音手法は、DAWに代表されるものでありますが、応募各作品を聴きますと、実にDAWを使いこなし、熟成されたサウンドが多くなって来たことは、大変心強い事であり頼もしくも感じます。

特に、部門Ａのアコースティックを主とした作品は、日本の音楽文化を世界に問いかけて行くものと言っても過言では無いと思っております。

優秀賞を獲得された３作品のエンジニアの方々。そして最優秀賞を授与されました株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズの鈴木浩二さんと、これらの作品に拘わった全てのエンジニアと関係者の皆様に、心より賛辞を贈りたいと思います。「おめでとうございます」。

最優秀作品「アルビノーニ：オーボエ協奏曲　変ロ長調」は、宮本文昭さんのオーボエの響きと、東京都交響楽団の織り成すサウンドは、ホールライブならではの自然の臨場感を重視した音場構成・楽器の忠実な表現と云い、自分自身が目指した目標が現実として実を結んだ、素晴らしい力作と評価致します。

優秀賞の松本靖雄さん「Eartheory」と半田和彦さんの「No Strings Attached」の２作品は、共にJAZZでありまして、その力量は、拮抗しており甲乙つけ難く、審査員も悩んだところであり、評価の点数はまったくの同点でありました。

JAZZ収録にあっては、マイクのセレクトとセッティングON／OFFの妙味にありますが、時としてDAWを使用した場合、JAZZ本来のマイルドな力感が損なわれ、HI･LOW強調で、いわゆる「ドンシャリ傾向」になりがちですが、その方向を巧くコントロールした２作品であると評価致します。

部門Ａの総括と致しまして、DAW、特にProToolsに代表される録音方法は、ある意味で安定期に入ったのではないかと思います。エンジニア諸氏は音楽の趣旨、方向に

叶った録音をしようと日夜努力している様子が伺えました。
　最後にDAWを使いこなす自信は大いに有って良い事ですが、決して自信過剰にはなって欲しくありません。一部聞くところに依ると、各楽器のレベル換算や録音トラックのヘッドルームを理解する事無く、単純にレベルを抑える為、コンプレッサー掛け捲りの収録楽曲が有るとも聞いておりますが、ここにお集まりの方々は、そのような事は無いと信じております。エンジニアの皆さんにおかれましては、今後も「基本を重視」しつつ「感性を磨き」、「良い音楽」、「良い録音」を「自信をもって」世に送り続けていって欲しいと思います。宜しくお願い致します。

＜部門B　CDパッケージメディア（ポップス、歌謡曲等）＞

　部門Ｂの講評を述べさせて頂きます。

日本ミキサー協会
理事長 梅津 達男

　今回は、CDメディア部門をClassic Jazzの部門AとPops歌謡曲の部門Ｂに分けた本来の形に戻ることが出来ました。
　以前、このPops部門には、40曲近くの応募があり予備審査をしていました。
　その頃から比べますと、今回の応募数18作品は、ちょっと少ない感じが致します。

　とはいえ、この曲数を審査するには、2時間程度かかります。
　最初から最後まで同じ基準を頭に描いて審査するのは、難しいものです。
　私は、エンジニアですので、「自分が録音したらどうするか？」が基本になり、素晴らしい音で「負けたな」と思えば、満点近い点数になったりしてしまいます。
　そんなこともあり、今回は「オーディオ的見地」「音楽的見地」など、11項目の審査基準を設け、あまり審査員個人の嗜好に傾きすぎないよう試みました。
　特に部門Ｂでは、ミキサーの創造力「クリエイティブポイント」や「アレンジを理解した音つくり」など、エンジニアの個性を上手く評価できるような項目を作ったつもりです。

　良い音を作る、特にPopsの録音では、オリジナルの音を作るわけで、様々な状況、要素に左右されます。
　アレンジや演奏家の音楽的テクニックに加え、その音色、打ち込みに使われる音源の音色など、どれもおろそかに出来ない要素です。
　そして、それに対する感性、感覚は、エンジニアだけでなくプロデュースする方と共有するものでなければ、良い音、良い音楽は、作れません。

　今回の審査結果を伺って、改めて優秀作品のCDを聞かせて頂きました。
　優秀賞のミキサーズラボ　三浦瑞生さん録音の、今井美樹「20才のころ」、同じく優秀賞のミキサーズラボ　加納洋一郎さんが録音した、川江美奈子「The Water Is Wide」、これはたまたまだと思いますが、この２作品とも編曲が、武部聡さんでした。唄の良さを最大限に引き出すため、必要最小限の音使いで無駄の無いアレンジです。
　そして、それに応えるミックス、曲のニュアンスを充分理解した録音です。

今井さんの曲は、一つ一つの音色がとても綺麗で、ストリングスで作り出された空間、柔らかな音色のリズムと、丁寧に作り上げたボーカルサウンド、三浦さんの応募者コメント通りの温かさが出ていました。
また加納さん録音の川江さんは、幾重にも重ねられたコーラスサウンドで、その音色は、豊かな奥行きを造り、音楽を上手く演出していました。
そして最優秀賞のビクターエンタテインメント中山佳敬さん録音の、桑田佳祐「風の詩を聴かせて」は、とにかく音量感がありました。
現在Popsを聞かれる方は、CDメディアの他に、携帯、コンピュータのモニターなど、オーディオ的に再生が、難しいものが増えています。
ミキサーの方も、ラジカセやスモールスピーカーを利用して音を作っています。
つまり小さい音量で音色を作っているわけで、CDの100dB近いダイナミックレンジをフルに使うというより、ダイナミックレンジは40dB程度でも最大の音量レベルでマスタリングして欲しいとなっている感があります。
その結果、本当は小さい楽器なのに、大きな音の感じに仕上げられている。
これは、単にエンジニアだけの考えより、それを望むアーティストや制作者の考えで左右されています。
その意味でも楽器のチョイス、楽器の音色が、音楽に与える力は大きいものです。
いかに歪が少なく大きく感じる音を作れるかすべてのエンジニアが努力しています。そこに、サウンドの新しさを覚えるのも確かです。

桑田さんの「風の詩を聴かせて」は、全ての音が音量感いっぱいの録音が出来ており技術の高さを示していました。

これからの音楽はどの様になってゆくのか？
これはその音楽がどの様な聴かれ方をするかに左右されますが、ちょっとだけダイナミックレンジを考えていただけると音の幅が広がると思います。

受賞者の皆様、本日は、本当におめでとうございました。

＜部門Ｃ・Ｄ　ニューパッケージメディア＞

部門Ｃニューパッケージメディア・DVD-Audio、DVD-Video、SACD（２ch）及び部門Ｄニューパッケージメディア（マルチchサラウンド）作品の講評をお伝えいたします。

ビクターエンタテインメント株式会社
ビクタースタジオ長 高田 英男

部門Ｃ　ニューパッケージメディア（２ch）
参加作品はSACDが４作品のみと大変寂しい状況でした。
音楽制作におけるパッケージメディアその物の位置付けが問われる時代ですが、ニューパッケージメディアならではの音の魅力などを、実際に音楽を作り出しているアーティスト及び音楽制作プロデューサーなどに、より興味を持って頂き、今後広がっていく事を期待しております。
では具体的講評ですが４作品とも審査結果としては大きな差は無く、かなり競り合

っています。
　その中で川崎さんが担当され最優秀賞を受賞された市原ひかり、「Fragile」ですが、全体的なサウンドの印象として、大変素直で丁寧な録音アプローチで纏められた作品と感じました。
　その為、試聴した瞬間は特に何かサウンドとしての強いメッセージは正直感じませんでしたが、１分～２分と試聴していくと自然に市原ひかりさんの演奏される音楽の中に引き込まれてしまいました。
　又、最近のマスタリングによるレベル競争の世界ではなく、適切なレベルと演奏そのものによるダイナミックレンジの広さなど、録音テクニックを感じさせない中に、音楽の魅力を引き出す技術力の素晴らしさを感じました。
　CDと言う器では表現しにくい「音の素直さ・きめ細かさ・音場の豊かさ」などニューパッケージメディアならではの魅力を引き出す録音であると、思いました。おめでとう御座います！
　続きまして部門Ｄ　ニューパッケージメディア（マルチchサラウンド）ですが参加作品は７作品で、SACD４作品、DVD－Videoが３作品でした。
　サラウンド作品における録音賞審査において、今回クラッシック音楽におけるサラウンド録音評と、ロック・ポップスの映像ソフト（サラウンド）を、同じ評価基準で判断して良いのかとの意見が審査委員の方からありました。
　録音する側のサウンドアプローチも違いますし、音楽ジャンルに特化した音創りをされている中で、同一基準での評価は正直難しいと感じましたが、今後の課題として検討させて頂きます。

　では具体的講評ですが、最優秀賞を受賞されました「篠笥さん」が担当された矢沢栄吉さんのライブ作品は、　サラウンド作品として音のインパクトが大変強いサウンドでした。
　ライブレコーディング「サラウンド録音のお手本」となる見事な音創りと感じました。
　基本的にライブ録音とスタジオ録音を比較しますと、サウンドのクリアーさを追求するとライブ感が乏しくなり、ライブ感を出し過ぎるとクリアー度が悪くなるなど、大変難しい録音の世界です。しかし授賞されました作品はライブでありながらロック本来の力強いビート感が、しっかりとしたクリアーなリズムセクションで表現され、矢沢さんの唄が大変気持ち良くバランスされております。更にサラウンドならではのアンビエント効果として臨場感が、見事に表現されております。
　今後映像ソフトなどサラウンドミックスが増える現状ですので、常に参考ソフトとして手元に置いておきたいお薦めのソフトと思います。
　おめでとう御座いました！

　最後にまとめになりますが、部門Ｃ＆Ｄを通して感じる事は、中々適切な言葉が見つからないのですが、音楽制作の一端を受持つ録音エンジニア自身が、音の質を高めていく意識、パッケージメディアが持つ音の世界の魅力を追求し、その魅力をお客様に伝えて行く努力が、今後パッケージメディア（CD、ニューパッケージメディア）の将来を決めて行く、そんな思いを改めて感じました。

　有難う御座いました。

＜部門Ｅ　放送メディア＞

（社）日本音楽スタジオ協会
顧問 淺見 啓明

日本音楽スタジオ協会の淺見です。
部門Ｅの審査員を代表して講評を述べさせて頂きます。

今回は、応募23作品の内サラウンド作品は、なんと2/3にあたる15作品で、昨年の22本中８本から倍増したことになります。
2011年の地上デジタル化が目標におかれ、地方局においても積極的に5.1サラウンドに取り組んでおり、キー局以外では、NHKを含め８作品の出品がありました。
ライブの取り組みでは、リア・チャンネルを会場の音場表現に使おうとして、前方にある音像の明瞭度に影響を与えてしまった作品が何点か見受けられましたが、特にpops・jazz・歌謡曲では、ボーカルやソロの不鮮明化は、今後の課題であるように思いました。

まず、最優秀作品、NHK深田さんの作品「冨田　勲　仏法僧に捧げるシンフォニー」は、愛知県三河山系の深山幽谷にある鳳来寺での録音です。
巨大な鏡岩の上に尺八、鐘突堂には琵琶、本堂前にはホルンとパーカッション、２ケ所に児童コーラスを配し、そして、シンセサイザーとの組み合わせは、「これぞ、サラウンド」といった、自然空間をあまねく活用した絢爛たる作品でした。
永らく、空間音響に取り組んでこられ、サラウンドの効果を知り尽くされた冨田勲さん および 音響スタッフの合作による後世に記録が残る素晴らしい作品でした。

今回、優秀賞には、２作品が選ばれました。
まず、テレビ朝日の酒井さんの作品“シェルブールの雨傘”「題名のない音楽会21より」が授賞されました、おめでとうございました。
シェルブールの雨傘の作曲者のミシェル・ルグランと故羽田健太郎氏が神奈川フィルをバックにピアノ協演をするという作品で、POPSオーケストラに要求される音色の明瞭度と定位感は、ステージ録音という条件の中で見事な仕上がりをみせ色彩的にもスケール感の大きいサウンドを作り出しており、また、粒立ちの良いピアノのアタックや流麗なフレーズを２人のピアニストが繰り広げる協演の中で、それぞれの「タッチの特徴」や「音色の特徴」を見事に描き出している素晴らしい録音でした。

続いて、長野朝日放送岩井さんの作品「サイトウ・キネン・オーケストラ2006」から、ショスタコーヴィッチの交響曲第五番です。サイトウ・キネン・オーケストラという完成度が高くハイテンションな素材にも恵まれて、会場の熱気と演奏の迫力、ディテールが一体となった完成度の高い録音でした。
更に、アシスタントエンジニアとのチームワークやチームの優れた技術力を垣間見る思いで聴かせて頂きました。
おめでとうございました。これで、私からの講評を終わります。

＜ベストパフォーマー賞＞

演奏家権利処理合同機構
ミュージックピープルズネスト
代表幹事 椎名 和夫

綺羅のお二人、順子さん・やすひろさん、本日はおめでとうございます……などというと、何か結婚式の披露宴みたいな感じなんですが、このお二人はご夫婦でございまして、相当長い間スタジオミュージシャンとしてキャリアを積んでこられております。今この授賞式会場で流されている広谷順子さんの声は、皆さんもきっと一度は耳にされている声なのではと思います。ご主人の木戸やすひろさんの声も、おそらく相当な回数皆さんがお聴きになっている声なのではないかと思います。

そういう具合に長い間スタジオミュージシャンを続けていますと、やはりみなさん自分でやりたいことというのが生じてきます。そういう節目から、それぞれのミュージシャンによって自分の素材を選んで様々な活動を始められる訳ですが、このお二人は日ごろ慣れ親しんでいる洋風の世界からひとつひねって日本的な素材を選ばれた…いわゆる「和」の世界でひとつの世界を創っておられることが特徴的だと思います。オケの帯域、それから彼等の声の帯域がぶつかり合わないような微妙な計算の上に立って、一つの情感を形創っているのは、見事ではないかと思いました。

今回ベストパフォーマーを選ぶのは非常に大変だろうなあ、という大方の予想で臨んだ訳ですが、審査に当った人間の一致した見解として、綺羅を選んだということになります。

また何故、今回から日本プロ音楽録音賞でパフォーマンスを表彰することになったかということですが、私共MPNというのは演奏家の団体であり、実は演奏家というのはスタジオの中でエンジニアの方と非常に近い属性をもって仕事をしている訳です。そしてまた世の中には、作品を売上枚数等により顕彰する制度は様々有る訳ですが、こういう作品のクオリティーという面だけをもって顕彰するという制度は、実は他にないわけでして、そうした中でパフォーマーも顕彰されるということは、非常に意義があることだなということで、昨年から参加させていただいているわけでございます。

演奏家の側からも、この賞をますます盛り上げていきたいと考えておりますので、今後とも日本プロ音楽録音賞を宜しくお願い申し上げます。

綺羅のお二人、本日は本当におめでとうございました。

「音の日のつどいパーティ」レポート

平成19年12月６日(木)「音の日」に、18：00より虎ノ門パストラル本館１F「葵の間」に於いて、当協会および（社)日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、(社)日本レコード協会、演奏家権利処理合同機構Music People's Nest、CDs21ソリューションズの共催により、第14回日本プロ音楽録音賞授賞式関係者と当日併行して開催された（社）日本オーディオ協会主催の音の匠顕彰式および記念講演会関係者が参加した「音の日のつどいパーティ」が開催された。

鹿井 信雄 会長

このパーティの前に実施されたプロ音楽録音賞の授賞式がパーティ開始10分前に終了し、受付業務も多少慌ただしい準備となってしまいました。当日の模様を以下にレポートさせていただきます。

ソニー（株）相談役・大賀 典雄 氏

最初に（社)日本オーディオ協会の鹿井信雄会長より来場者に対して開会の辞が述べられた後、ソニー（株)相談役・大賀典雄氏により乾杯の発声が行われた。

15分程経過したところで、本年度の「音の匠」として顕彰された内容が以下の通り紹介された。

○東京都水道局の漏水調査の皆さん

12回目にあたる本年度の「音の匠」は、優れた聴覚と音響技術を用いた漏水の発見に努め、水資源の有効活用と人々の暮らしに貢献をされている、東京水道局の漏水調査の専門職員の方々が顕彰されました。

東京都水道局漏水調査の専門職員の方々は、優れた聴覚と音響技術を用いて漏水の発見に努め、水資源の有効活用と人々の暮らしに多大な貢献をされています。

漏水防止のためには、検出器、増幅器、ヘッドフォンで構成される高感度検知器で、地表面から漏水音を探し出します。これを音聴法というそうです。作業中は全神経を聴力に集中するため、作業前の休養及び日常の体調管理に留意されています。

その努力もあり、水道管から漏れる水の割合を示す漏水率は、東京都が３％台。世界の大都市では10～30％だそうです。東京都では漏水調査の専門職員を養成する研修所をつくり、発見器を用い耳で聴くだけで漏水個所を判別する職人技の伝承に力を入

れており、音をたよりに日本の水資源を大切に守る代表として、東京都水道局の８部署の方々を「音の匠」として日本オーディオ協会より顕彰しました。

顕彰式では、電子式漏水発見器（音聴法）による漏水発見のデモンストレーションを行っていただき、式典に参加された多くの皆様の興味を引きました。ひきつづきの「音の日のつどい」交流パーティでは、「音の匠」の皆様が紹介されました。

「音の匠」の紹介に続き、プロ音楽録音賞授賞式の司会者「金子 よしえ」さんの進行により、第14回日本プロ音楽録音賞に於いて表彰された各部門28名の受賞者を代表して、最優秀賞に選ばれた代表エンジニア５名とベストパフォーマー賞のアーティストが紹介され、インタビューが行われました。

部門Ａ「CDパッケージメディア
（クラッシック・ジャズ等）」
鈴木　浩二 氏
（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

部門Ｂ「CDパッケージメディア
（ポップス・歌謡曲等）」
中山　佳敬 氏
ビクターエンタテインメント（株）

部門Ｃ「ニューパッケージメディア
（DVD-Audio、DVD-Video、SACD 2ch ステレオ）」
川﨑　義博 氏
（株）ポニーキャニオン

部門Ｄ「ニューパッケージメディア（DVD-Audio、
DVD-Video、SACD マルチchサラウンド）」
篠笥　　孝 氏
（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

部門Ｅ「放送メディア」
深田　　晃 氏
NHK放送技術局コンテンツ技術センター

ベストパフォーマー賞
綺　羅

代表者５名とベストパフォーマー賞のインタビューが終了した後は再び歓談タイムとなり、会場内では受賞者を取り囲んで談笑する場面が見受けられ、今年も様々な音のプロフェッショナルな方々が一同に会する場となりました。

最後に中締めの時間となり、(社)日本音楽スタジオ協会会長 内沼 映二氏の挨拶により、無事に終了となりました。

今回もプロ音楽録音賞の運営委員会および審査委員の皆様をはじめ、多くの関係者のご協力により、第14回目を無事に終了することが出来ました。有難うございました。

会　員　動　向

1．会員数（平成20年１月10日現在）

正会員（法人）	34法人	正会員（個人）	16人
賛助会員Ⅰ	43法人	賛助会員Ⅱ	４法人

2．退会

①法人正会員

○株式会社リトル・バッハ　平成19年９月末日付

②個人正会員

○庵谷　文博　退会通告　平成19年８月３日付

③賛助会員Ⅰ

○株式会社スタジオイクイプメント　平成19年６月30日付

○株式会社エム・アイ・シー　平成19年９月30日付

○株式会社ユーフォニクスジャパン　平成19年12月31日付

④賛助会員Ⅱ

○株式会社ヒューコム　平成19年11月30日付

3．入会

①法人正会員

○株式会社エス・イー・エス（山中湖スタジオ）　平成19年７月１日付

〒401-4611 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘506

TEL：0555-62-3613　FAX：0555-62-5181

○株式会社ミキサーズラボ（ワーナーミュージックマスタリング）

平成19年７月１日付

〒107-0062 東京都港区南青山7－3－6　イマス南青山大京ビル２F

TEL：03-6418-0881　FAX：03-3406-3009

②賛助会員Ⅰ

○学校法人 イーエスピー学園 専門学校ESPエンタテインメント　平成19年10月１日付

〒531-0072 大阪市北区豊崎3－21－7

TEL：06-6373-2888　FAX：06-6373-2887

【学校代表者】小野寺　伸定（学校長）

【協会担当者】今村　典也（サウンドクリエイター科学科長）

4．法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○株式会社ソフトハウス　オンエアー麻布スタジオ

【法人代表者】

（旧）代表取締役社長　増原　健

（新）代表取締役社長　吉澤　稔夫

○株式会社宝塚クリエイティブアーツ

【法人代表者・会員代表者】

（旧）代表取締役社長　乗岡　永記

スタジオ担当プロデューサー　檜垣　忠

（新）代表取締役社長　出崎　弘

スタジオ・ブッキングマネージャー　山田　真一

②個人正会員
○藤田　厚生（有限会社　エフ　代表取締役）
（旧）渋谷区笹塚2－7－12　日神デュオステージ笹塚西館601
（新）ワンダーステーション　マスタリングルーム内
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷4－26－15　秀和代々木駅前ビル
TEL：03-5414-2275　FAX：03-3401-8397
③賛助会員
○日本板硝子環境アメニティ株式会社
【法人代表者・協会担当者】
（旧）代表取締役　野谷　滋
建築エンジニアリング東京事業部　江川　明也
（新）代表取締役　袴田　正人
建築エンジニアリング東京事業部　売野　匠
○学校法人 国際総合学園 国際音楽エンタテイメント専門学校
【学校代表者】
（旧）学校長　高桑　利和
（新）学校長　斉藤　秀志
○学校法人 東京工学院専門学校
【学校代表者】
（旧）学校長　亀田　俊夫
（新）学院長　今井　澄子
○株式会社サンミューズ
（旧）神奈川県川崎市高津区下作延1043番地
（新）〒211-0051 神奈川県川崎市中原区宮内2－29－5
TEL：044-797-3339（代表）　平成19年12月１日付
○ティアック株式会社
（旧）東京都武蔵野市中町3－7－3
（新）〒206-8530 東京都多摩市落合1丁目47番地
TEL：042-356-9100（代表）　平成19年11月26日付

５．その他
○社名変更
（旧）東芝イーエムアイ株式会社
東芝イーエムアイ・スタジオ株式会社
（新）株式会社EMIミュージック・ジャパン
株式会社EMIミュージック・ジャパン・スタジオ
○理事長変更
社団法人音楽制作社連盟
（旧）理事長　糟谷　銑司
（新）理事長　大石　征裕（マーヴェリック・ディー・シー株式会社）
社団法人私的録音補償金管理協会
（旧）理事長　佐藤　修
（新）理事長　大林　丈史
○会長変更
社団法人日本音楽事業者協会
（旧）会長　井澤　健
（新）会長　尾木　徹（プロダクション尾木）

○連盟名称変更
（旧）社団法人日本テレビコマーシャル制作社連盟
（新）社団法人日本アド・コンテンツ制作社連盟
理事長　森　俊幸
○住所変更
コロムビアミュージックエンタテインメント（株）南麻布オフィス
（旧）〒106-0047港区南麻布4-11-21　ランディック南麻布ビル２Ｆ
（新）〒106-0047港区南麻布4-11-21　ラウンドクロス南麻布ビル２Ｆ
スタジオ・技術部 録音グループ　TEL：03-3588-2810　FAX：03-3477-8568
○事務局長変更
（社）映像文化製作者連盟
（旧）理事・事務局長　大久保　正
（新）事務局長　中嶋　清美
○理事、事務局長変更
日本音楽著作家連合
（旧）理事・事務局長　野本　高平
（新）理事長　四方　章人
事務局長　雅木　しげる
○経済産業省人事異動
経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課長
（旧）小糸　正樹
（新）前田　泰宏（マエダ　ヤスヒロ）　平成19年７月付
○住所変更
（株）アップアップ
新住所
〒131-0033 東京都墨田区向島2－21－14－803
TEL：03-3625-9878　FAX：03-3636-2787
HP：www.upup.jp mail:upup@upup.jp　平成19年11月１日付
○グループ新オフィス
ヤマハミュージックエンタテインメントグループ
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2－34－17　住友不動産原宿ビル
（株）ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス、
（株）ヤマハエーアンドアール、（株）ヤマハミュージックアーティスト、
（株）ヤマハミュージックコミュニケーションズ、（株）ヤマハミュージックパブリッシング、（株）ヤマハ・アトス・ミュージック・アンド・ビジュアルズ
○代表取締役変更
オーディオ・プロセッシング・テクノロジー（株）
（旧）浅野　武夫
（新）鈴木　京
○住所変更
オーディオ・プロセッシング・テクノロジー株式会社
〒169-0073 新宿区百人町4－9－2　第二浅美ビル３Ｆ
TEL：03-5332-3191　FAX：03-5332-3192
○事務所移転
株式会社 EMIエンタテインメント・ジャパン
〒107-0051港区元赤坂1－4－21　赤坂パレスビル５Ｆ
TEL：03-5772-6920（代表）

♪　編　集　後　記　♪

『新年あけましておめでとうございます。2007年を象徴する言葉は「偽」。何とも嫌な言葉ですよね。2008年が素敵な言葉で締められる様、願わずにはいられません。3月には研修ツアーも控えているので、有意義なスタートがきれますように！』

(YU)

昨年は、官民ともにモラルの無い事件が表面化し明るい話題の少ない一年となりましたが、今年は北京オリンピックの年、日本の代表選手はどうなんでしょうか。全体的に新旧交代が遅れている感じですね。

hair ken short

謹賀新年！昨年中は色々お世話になりました。事務局前の地下鉄工事も大詰め。開通すると便はよくなりますが、多分地下何階になり地上に出るまでに疲れそうな感じです。新線はほとんど駅についてからの移動が大変であまり乗らないようにしている私です。

Yukalin

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊総　務　委　員　会＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

委 員 長　梶原　裕子（ｵﾝｴｱｰ麻布ｽﾀｼﾞｵ）
副委員長　豊田　重成（音響ハウス）
〃　茂木　泰佑（個人会員）
委　員　小川　高明（D&Aミュージック）
〃　町田　幸紀（エレクトリ）
〃　佐藤　賢一（事務局）
〃　山本　　薫（　〃　）

＊＊＊

【発行人】会　長　内　沼　　映　二　　【発　行】2008年（平成20年）１月
【発行所】社団法人 日本音楽スタジオ協会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号　モナーク大久保３F
TEL. 03－3200－3650　　FAX. 03－3200－3660
http://www.japrs.or.jp　　E-mail:japrs@japrs.or.jp
【編　集】総　務　委　員　会　　【印刷所】株式会社研恒社

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp